

令和4年度 酒田西高校定時制の課程 学校評価書 （自己評価・学校関係者評価）

教 育 目 標		重 点 目 標	達成度
1 感性豊かで思いやりのある心を持つ人間を育成する。		1 基礎学力の定着・向上と、「よりよく生きるための力になる勉強」という視点からの学習指導	A 達成している
2 社会において豊かに生きることができる基礎的な能力を持った人間を育成する。		2 人間関係形成能力の育成	B おおむね達成している
3 逞しい気力と体力を育て、地域社会に貢献できる人間を育成する。		3 安心・安全な学校づくり	C あまり達成していない
		4 特別支援教育体制の充実	D 達成していない
		5 新教育課程の着実な実施	

	Plan	Do	Check	Action	学校関係者評価	
	教育目標・方針・重点目標実現に向けた取組課題・具体的方策	目標の達成状況 達成にむけた取組み状況と分析	評 価	○成果 成果と課題 ・課題	意見・要望・評価等	総 括
1	き 基 礎 学 力 の 定 着 に な る 学 習 指 導 と「よりよく 生 活 す る こ の た め に」	放課後等の有効活用による、個々のニーズに応じた指導の充実	B	○希望に応じた放課後の学習会を実施し、高卒認定試験で6名が合格した。 ○放課後学習の場所を固定することで、生徒の動向を確認でき安全・安心な学習環境を維持できた。 ・組織的な指導体制の確立。	○地元企業4社による「WAKU WAKU WORK」を初開催したことは、企業の魅力を体験することができ地元定着へ期待ができる。	○多様な支援を要する生徒への対応として、個に応じた放課後の学習会の実施やチーム・ティーチングによる授業への取り組みが高い効果を発揮した。
2		進路希望や興味関心などを足がかりとした学習意欲の向上	B	○進路希望調査の結果を教職員で共有し、進路実現に向けた指導に活用した。 ○「WAKU WAKU WORK」を初開催し、ブースに別れ各企業の説明と体験することで就労意欲を高揚させた。 ・進路希望が希薄な生徒への対応。		
3		「生徒の授業評価」等を活用した授業の改善と、探究的・体験的な学習機会の拡大	B	○「総合的な探究の時間発表会」をGooglemeetを活用したオンライン形式で各年次ごとに実施した。 ・観点別評価に伴う「生徒の授業評価」のアンケート内容の修正・改善。 ・「総合的な探究の時間」の4年間を見据えたカリキュラムの検討。	○チーム・ティーチングによる教職員への負担は増加するが、学習効果が高く環境整備にもつながるので今後も継続した取り組みをべきである。	○特別支援教育支援員による生徒に寄り添った丁寧な支援は、生徒のみならず教職員の負担軽減につながった。 (働き方改革への一助)
4		チーム・ティーチングの効果的な運用	A	○多様な生徒に対して柔軟な対応が可能となり、学習環境が整備された。 ・教職員の負担増加。 ・教職員の加配やSSWの配置、英語の授業でALTとのチームティーチングの実施。		
5	人 間 関 係 形 成 能 力 の 育 成	コミュニケーション能力・自己表現力の育成	B	○学校行事で発表の場を設定し、取り組むことで着実に自己表現力やコミュニケーション能力が培われた。 ○学校行事や各種講話後に作文を書くことで、自身を振り返ることができメタ認知力を高めた。 ・対人関係が苦手で発表が不得意な生徒への対応。	○感染防止対策を万全にした上で年間行事を全て実施できたことは、生徒の自主的・主体的な取り組みの成果である。	○年々、生徒会を中心とした学校行事への取り組みが浸透し、生徒の自主的・主体的な活動となった。
6		学校行事、生徒会行事、部活動の充実と、自主的・自律的行動力の育成	B	○生徒会が中心となり、スポレク等、生徒が自主的・主体的に学校行事を企画・運営し、年次を越えた交流ができた。 ○継続的なアンケートの実施により、系統的な内省が可能となり自律的な行動力が育成された。 ・スポレク等にレクリエーションを導入し、運動の不得意な生徒が参加しやすい環境を整備する。		
7		地域と連携した教育活動の推進	B	○昨年度以上に、ホームページに生徒活動状況を掲載し情報発信した。 ○文化祭は今年も琢成学区コミュニティ防災センターに作品展示し、制限はあったが地域との交流ができた。 ・新型コロナが「5類」に引き下げられた場合の地域人材や施設等の有効活用。		
8		進路意識向上のためのキャリア教育の充実	A	○年間計画に基づく計画的な進路指導により、生徒の進路意識を高め継続的な指導ができた。 ○進路決定者による「先輩からの講話」では、就職や進学に向けた取り組みについて体験発表し、在校生の次年度からの早期の進路実現に向けた意識付けとなった。		
9	安 心 安 全 な 学 校 づ く り	「新しい生活様式」を踏まえた、安全かつ安心な学習環境の整備	A	○感染防止対策として、サーキュレーター、非接触体温計AIサーマルカメラを設置した。 ○発熱時の待機場所を整備した。 ・新型コロナが「5類」に引き下げられた場合の対応。	○「新しい生活様式」を踏まえつつ、サーキュレーターや非接触体温計AIサーマルカメラを設置することで安心・安全な学習環境が整備されていた。 ○生徒自身の健康管理について、定時制らしい取り組みを工夫していた。	○コロナ禍ではあったが、予定した学校行事を全て実施できた。 ○「公開授業」の実施やホームページを昨年度以上に内容を更新し、地域・保護者に情報発信できた。
10		特別支援教育への理解に基づいた生徒理解の深化と、組織的な支援の充実	A	○特別支援教育に関する様々な研修会をオンラインで教職員が受講し、理解の深化に努めた。 ○保健主事、通級担当、養護教諭、特別支援教育支援員を中心に、教職員で生徒状況を共有し一人一人の特性を理解した上で組織的に対応した。		
11		感染症対策も視野に入れた健康教育の充実と自己管理能力の育成	A	○定期的に情報提供することで、自己の健康の保持・増進について興味関心を高めた。 ○日々の健康状態については「健康チェックカード」に記録し、週単位で提出することで自己の健康管理を意識させた。 ・「健康チェックカード」未提出者への指導と「さくら連絡網（ICT）」の利活用。		
12		保護者との信頼関係の強化に向けた努力の継続	B	○欠席連絡については、「さくら連絡網」を利用し簡易化にすることで保護者の負担軽減となった。 ○ホームページについては、昨年度以上に充実した内容を掲示し情報発信できた。 ・公開授業の年間複数回の開催の検討。		
13	特 別 支 援 教 育 体 制 の 充 実	2年目を迎えた通級指導教室の円滑な実施と定着	A	○通級指導教室「ライフスキル」での自立活動により、思考力・判断力・表現力が着実に身に付いた。 ○保護者と生徒双方が特別支援教育について理解を深め、意欲的に「ライフスキル」に参加している。 ・生徒の増加に伴う通級希望者の増加への対応。	○特別支援教育に関する研修会への教職員の積極的な聴講による資質向上及び校内での支援体制が構築された。 ○主治医とのカンファレンスによる生徒との「ルール」作りによって、本人・保護者・教職員の共通理解が図られ効果的な支援ができた。	○特別支援教育について、様々な研修会への参加により教職員の資質向上及び校内での支援体制が構築された。 ○主治医とのカンファレンスによる生徒との「ルール」作りによって、本人・保護者・教職員の共通理解が図られ効果的な支援ができた。
14		外部専門家等を活用した研修機会の充実による教員資質の向上	A	○オンラインによる簡易な研修会を校内で開催することで多数の教職員が参加できた。 ○酒田特別支援学校や作業療法士から来校していただき、情報共有や支援方法について助言をいただいた。 ○メグシー酒田教室を初訪問し、実際に行われている個別療育を体験できたことは貴重な経験となった。		
15		行政、医療、NPO等関係機関との連携の強化	A	○保護者との共通理解のもとで、ハローワーク、若者サポートステーションとの連携により就職活動に取り組んだ。 ・多様な支援を要する生徒の増加に伴う医療関係との連携。		
16	新 教 育 課 程 の 着 実 な 実 施	生徒の実情に応じた、効果的なICT教育の推進	B	○レポート作成や発表会においてChromebookを活用することで、知識・技能の習得が確認できた。 ○Google Meetを利用したオンラインで「総合的な探究の時間」発表会を実施した。 ・ChromebookによるGoogle校内研修会の継続、複数回の実施による教職員のスキルアップ。	○「観点別評価」によって教職員の負担も増加するが、ルーブリック評価による自己評価、相互評価等への取り組みでの効果的な評価方法の検討。	○生徒・教職員ともに使用して慣れることを第一に活用した。 ○年1回ではなく、複数回の継続的な校内研修による情報共有とスキルアップが必要である。
17		本校の実態に即した観点別評価方法の確立	B	○1年次の「観点別評価」については、遺漏なく評価できた。 ・「観点別評価」校内研修会の継続、複数回の実施による共通認識や教科間の情報共有。 ・「観点別評価」の生徒への周知方法の検討。		
自己評価及び学校関係者評価の改善点		・自己評価については、昼間定時制への移行に伴い給食が廃止となっているため「食育」に関する項目を変更及び削除した。また、1人1台端末導入による「ICT関連」の項目を新規に設けた。 ・学校関係者評価については、定時制活動状況の周知方法を検討する必要がある。(定時制への意見や要望、評価しやすい情報の周知)				